

## 研修医評価表（耳鼻咽喉科）

A：十分達成 B：ほぼ達成 C：やや不十分 D：全く不十分 NA：評価できない

評 価 項 目	研修医					指導医				
	A	B	C	D	NA	A	B	C	D	NA
額帯鏡やヘッドライトを用いて耳鼻咽喉の診察を行うことができる。										
手持ち耳鏡を用いて耳内を診察することができる。										
顕微鏡を用いて耳内を診察することができる。										
喉頭ファイバースコープを用いて喉頭の診察ができる。										
聴力・平衡機能検査の目的、内容を理解し実施や評価ができる。										
頸部超音波検査目的、内容を理解し実施や評価ができる。										
嗅覚・味覚検査の目的、内容を理解し実施・評価できる。										
頭頸部領域の解剖を理解し、CTやMRIなど画像を読影できる。										
めまい、鼻出血、急性上気道炎症性疾患など救急疾患の重症度、緊急度を判断できる。										
頭頸部がんの周術期管理や全身管理を行うことができる。										
基礎疾患を有する症例の全身管理を行うことができる。										
指導医のもと、口蓋扁桃摘出術、気管切開術、鼓膜切開術など基本的な外科手術ができる										
患者や家族の心理面やプライバシーに配慮し、良好なコミュニケーションをとりながら医療を実践できる。										
コメディカルと協調して仕事を行うことができる。										